

## 再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道41号 <small>いのたににれはら</small> 猪谷榆原道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：富山県富山市猪谷 至：富山県富山市 <small>いのたににれはら</small> 榆原	延長	7.4km		
事業概要	<p>一般国道41号猪谷榆原道路は、富山高山連絡道路の一部を構成し、富山市猪谷～富山市榆原において、災害に強い道路ネットワークの形成、事前通行規制区間の解消、急カーブ及び冬期交通障害の解消などを目的とした、延長7.4kmのバイパス事業である。</p>				
H9年度事業化	都市計画決定：－		H13年度用地着手	H14年度工事着手	
全体事業費	約485億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	74%	供用済延長	5.8km
地域の防災面の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道41号は、第1次緊急通行確保路線に指定されているが、事前通行規制区間があり約1件/年の通行規制が発生。並行する県道も事前通行規制が多く、規制時の集落孤立化等が懸念される。</li> <li>・国道41号や神通川対岸の県道東猪谷富山線で災害や雨量規制による全面通行止めが発生した場合、事前通行規制区間に囲まれた集落の孤立化が懸念される。</li> <li>・飛騨地域は、富山市への買い物利用が多く、都市間相互の結びつきが強い。一方、事業区間は、特別豪雪地帯に指定され、冬期の降雪・積雪により、登坂不能(直近10年間で19件)や大型車のスリップ事故による車線閉塞などの冬期交通障害が発生している。</li> </ul>				
課題を踏まえた対策・事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前通行規制区間等を回避するため、現道のうち4.6km区間を別線整備(橋梁により神通川右岸へのバイパス整備)</li> <li>・現道が存在する左岸は、神通川とJR高山本線に挟まれているほか、現道両脇には急峻な斜面が連続しており、左岸側で整備する場合は大規模なトンネル整備が必要となることから、一部右岸へのバイパス整備とした。</li> </ul>				
事業の効果等			費用	(残事業) / (事業全体)	
①災害時の迂回解消を含めた走行時間の短縮等 (362億円(残事業=320億円))			97 / 674 億円		
②災害に強い道路ネットワークの形成 ・事前通行規制区間の代替路が形成されるなど、災害に強い道路ネットワークを形成			<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;">                 事業費：89 / 632 億円                  維持管理費：8.0 / 42 億円             </div>		
③孤立集落の解消 ・通行規制時の迂回路が形成されることで孤立化が懸念される沿線集落の安全で安心な暮らしを確保					
④冬期交通障害の解消 ・道路線形の改善や堆雪に必要な幅員が確保され、冬期間においても安全で安定した交通機能を確保					
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見： 富山高山連絡道路整備促進期成同盟会や富山・岐阜両県等から整備促進の要望を受けている。</p> <p>知事の意見： 事業継続に同意する。</p> <p>なお、今後ともコスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮をお願いしたい。</p>				
事業評価監視委員会の意見					

審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 前回再評価以降、周辺に大きな社会情勢等の変化はない。	
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・事業の進捗状況：用地進捗率 100%、事業進捗率 73%（令和 4 年 3 月末時点） ・残事業の内容：橋梁工事、改良工事	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・富山市猪谷から富山市片掛間において、（仮称）猪谷橋、（仮称）片掛橋の橋梁工事及び改良工事等を推進し、早期完成 2 車線開通を目指して整備を進める。	
施設の構造や工法の変更等 ・新技術の活用等により、コスト縮減を図る。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由 当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考える。	
事業概要図	

- ※ 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後 50 年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算を含む。
- ※ 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。